

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第175号(2021. 10. 1)
事務局 川西地区自主防災会

できる時に できる人が できる事をする

特定非営利活動法人東北ボランティア有志の会香川 藤井 節子

この度は私たちの活動を紹介させていただき感謝申し上げます。
コロナ禍であっても災害は待つはくれず、南海トラフ地震対策も急務です。かがわ自主ぼう連絡協議会の皆さまとの連携を深めさせていただければ嬉しく思います。

1 組織の紹介

東北ボランティア有志の会香川は、東日本大震災で被災された方々の復興の応援をするため、2011年10月任意団体として設立し、2016年1月にNPO法人化しました。



＜第11回 東北ボランティアバスツアー＞参加者募集 被災地の復興の状況を確認に行きませんか？

2011年3月11日の「東日本大震災」からもう4年…
東北被災地の方々は復興に向けて頑張っておられますが、まだまだ人の支援も必要です。
東北ボランティア有志の会香川の「第11回 東北ボランティアバスツアー」の参加者を募集します。
今回は、有志の会としては初めての地、東松島市と石巻市を訪問します。
(石巻市の大川小学校や門脇小学校、東松島市の航空自衛隊松島基地などの見学を予定しています)
琴平町の「中野うどん学校」様の協賛をいただいているうどん教室も今度7回目の開催となります。
訪問先の仮設住宅の集会所に宿泊させていただき、夜には被災された方々との交流も計画しています。

記

- ◇日時 2015年3月20日(金)19:00頃～3月23日(月)11:00頃帰郷
- ◇目的地 宮城県東松島市 矢本運動公園仮設仮設住宅
- ◇活動 うどん教室と炊き出し
被災地視察
- ◇費用 40,000～60,000円程度
- ◇定員 20～30名程度(最少運行人数15人～)
- ◇概要
20日(往路) 19時頃に高松出発、途中休憩をとりながらバス車中泊。
21日(活動) 宮城県東松島市で「うどん教室イベント」、夜には集会所で住民の方と交流会
22日(活動) 宮城県石巻市の視察と、仮設住宅で「うどん教室イベント」
23日(復路) 昼頃に高松へ帰郷予定。



★一次締切—2月28日
参加者が定員に満たない場合、中止となる場合があります。
★参加費はほぼバス代です。

仮設住宅の集会所に宿泊(無料)のため、寝袋等の準備が必要です。
★被災地での買い物や、現地を訪れる事も復興支援に繋がります。
★仮設住宅へメッセージカードをお届けします。

★参加ご希望の方や興味のある方は、お気軽にお訊ねください。
★有志の会香川への活動支援金も受け付けております。会員までお問い合わせ下さい。
※facebook「東北ボランティア有志の会香川」ページや、香川県社会福祉協議会のホームページ
高松市市民活動センター「ふらっと高松」のページもご覧下さい。



東北ボランティア有志の会香川 代表：藤井節子
kasetu@ohirt.ocn.ne.jp
090-5718-2220

活動は、バスを貸し切って東北3県(岩手・宮城・福島)へのボランティアツアーを企画し、瓦礫撤去はもとより仮設住宅や復興住宅を訪問し「うどん教室」を開催したり、被災者の方と交流を行います。香川に戻ると、被災地の状況を伝える活動として被災地の物産販売や、被災者を香川にお呼びして講演会などを主催します。また、各地域コミュニティで被災地を見てきた経験からの講演や防災講座、親子防災教室など啓発活動も行っています。

東日本大震災以降も続く熊本地震や西日本豪雨、大雨災害被災地などでも緊急復旧支援も行い、これまでの被災地支援は10年間で192名、のべ446名がボランティアに参加しました。[2021年9月30日現在]「東北の人たちから『もう来ないでも大丈夫だよ』と言われるまで訪問しよう」を合言葉に継続訪問をしています。

夫だよ』と言われるまで訪問しよう」を合言葉に継続訪問をしています。

2 組織発足のキッカケ

2011年3月の東日本大震災の年、私はdocomoコールセンターに勤務していました。地震により仙台にあるセンターが機能しなくなり、東北からの問合せを四国でも受けることになりました。「携帯電話の充電がしたい」「携帯が流されたので新しい電話がほしい」「契約者が津波で亡くなった」「携帯の電波で居場所を探して…」相談の電話がひっきりなしの中、ある男性の悲痛な言葉…

「家も会社もながされた。目の前で人が流されていくんや…この辛さがあんならにわかるか！ここへ来て見てみろ！」と…。

この対応のあと、私は被災地へ行く事にしました。

発災から5ヶ月後に行った被災地は復興どころかまだまだ復旧の真っ最中でした。そんな被災地に全国から集まるボランティアの人たちの「今、私たちが助けなくてどうするの」という熱い想いに「すてたもんじゃないな日本人」と、元気をもらって帰ってきました。戻ってから同僚に被災地の様子を話したところ「東北でボランティアがしたい」と言ってくれたので有志3人で団体を作ることになったのです。

3 10年の軌跡（これまで取り組んできたこと）

<東北ボラバスツアー>

当初の活動は瓦礫撤去などが主でしたが、被災者の方の生きがい作りのための農業支援も行いました。何もないように見えても少し掘るとお茶碗やビデオテープやおもちゃなど、ここで生活されていたことを感じさせられものがどんどん出てきます。



2011年11月 岩手県陸前高田市



2012年6月 宮城県南三陸町



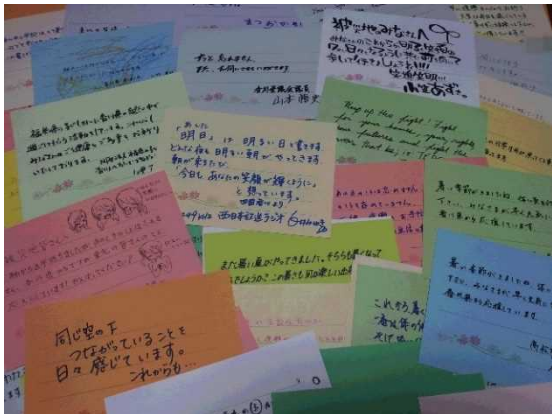
活動場所までついて行く仮設トイレ



リフォームするため壁剥がしや泥落とし

1年2年経っていくと徐々に災害ボランティアセンターは閉鎖されていき、現地で立ち上がったNPOなどが継続支援を行うようになっていきました。

被災者の方に「私たちにできることはありますか？」と聞いたところ「私たちの事を忘れないでください。私たちのところに来て下さい。」と言われました。香川から東北までおよそ1,100キロ。遠くて行けない香川の人にメッセージカードを書いてもらい仮設住宅の1軒1軒を廻って「四国から来ました」と言って手渡しをしました。5年も過ぎると、訪問者も少なくなるようで「えーそんな遠いところから?! 忘れずにいてくれてありがとう」と涙ぐむ人もいらっしゃいます。



↑ 集まった香川の人の想い…



↑ 宮城県山元町の仮設住宅

<交流>

せっかく香川から行くので手打ちうどん教室で住民の方々と交流し、夜は集会所に泊まらせてもらい親睦も図りました。



うどんの材料から説明し、捏ねて、踏んで、延ばして、切って、最後に皆で記念撮影



満足な出来ばえにステキな笑顔♡



集会所で住民さんにハンドベルを披露
(全員初対面のツアー参加者がバスで練習しました)

<被災地視察>

復興できたところ、更地のままのところ、時が止まったままのところもあります。2014 年からはボランティア活動だけでなく、被災地視察も加わりました。現場で被災者の方に語り部をしてもらおうと当時の様子がよく分ります。原発から 20 キロ圏内の福島県富岡町の立入り禁止区域にあるご自宅を視察させてもらう機会がありました。



↑ 新築で建てた家はわずか 4 年の居住で発災翌日から避難生活。家の中は 3.11 当日のまま。

<震災遺構>



↑ 宮城県山元町 中浜小学校
2 階屋上に避難した 90 人全員が助かる



↑ 宮城県石巻市 大川小学校
次女を亡くした鈴木さんが説明

<その後の災害>

2014 年徳島大雨災害、2016 年熊本地震、2017 年九州北部豪雨、2018 年西日本豪雨、2019 年台風 19 号、昨年も台風や集中豪雨で災害が発生しましたが、昨年だけはコロナで行く事ができませんでした。



↑ 2016 年 熊本地震



↑ 2018 年 西日本豪雨 岡山



↑ 2019 年 台風 19 号 福島県

今年も 8 月 11 日からの大雨で川の氾濫や土砂災害が発生しました。コロナ禍ではありましたが、現地からの支援要請を受けた技術系団体に同行させていただきました。被災地へ入る前に PCR 検査を行い、活動日は抗原検査で毎日陰性を確認します。持ち込んだ重機で家の中や周りの土砂を掻き出し、川の氾濫で無くなってしまった橋を仮設で架けたり、土砂で傾いた納屋の壁をまっすぐに立て直したり、泥に使った農機具を復活させたり、専門知識を持っているけれど活動は全員ボランティア(無償)です。



<啓発活動>

防災に興味がある人もない人も、災害のこと知って欲しい。

そんな思いでイベントを開催しました。コロナの感染拡大により、集客イベントを取りやめオンラインのみに変更。YouTube からお聞きいただけます。

https://www.youtube.com/channel/UC475r_xhL00wHSFjHFhM6zQ/featured

防災に興味がある人もない人も

みんな見てね!

オンライン講演会アーカイブ

防災とボランティアのフェスティバル in サンポート
「できる時に できる人が できる事をする」
～未来を担う子どもたちとともに～

2021年9月30日、高松市のサンポート高松一帯で行う予定だった防災イベント。新型コロナウイルス感染拡大により、集客イベントを自粛。オンライン講演会に変更しました。「東日本大震災や「西日本豪雨災害」の被災地ZOOMで聴いてYouTube 生配信を行います。当事者の声を聞き、南瀬トフ地産への備えや私たちにできる事を考えます。

以下のURL・QRコードからいつでもお聞きいただけます。
<https://www.youtube.com/watch?v=6tckL7B9Jk&list=PL9K5j29201s>

QRコードはこちら

プログラム

- 被災地から生る声【数字講演会時間】
木村 紀夫(福島県大野町) [0:30~]
菅原 文子(宮城県気仙沼市) [0:30~]
鈴木 典行(宮城県石巻市) [2:20~]
高橋のりみ(宮城県石巻市) [2:50~]
萬代 好希(宮城県石巻市) [3:40~]
中島 利昌(宮城県吉野町) [5:00~]
- 基調講演—西日本豪雨被災地行政から
岡原 文彰(愛媛県宇和島市長) [4:20~]
- フォーラム—四国災害ネットワーク構築に向けて [6:27~]
前原 土武(災害NGO 総) [5:48~]
横田 謙樹(国土交通省四国地方整備局防災室) [6:17~]
- 連携団体(紹介)
特定非営利活動法人CONSENT [1:25~]
特定非営利活動法人Ujareduma Japan [1:30~]
特定非営利活動法人宇和島NPOセンター [1:40~]
特定非営利活動法人RAY of HOPE [1:50~]
タウン輝徳島 [2:00~]
直瀬町写真美術館からくま川(ま川) [2:12~]
特定非営利活動法人フェローズビル [2:31~]

<主催> 特定非営利活動法人 東北ボランティア有志の会青川
お問い合わせ先 090-5718-2220

<協力> 特定非営利活動法人 RAY of HOPE

この活動は「こども丸っこ」地域貢献活動、「一般社団法人四国アライズ 協会」の助成を受けて実施しました。

講演講師プロフィール

<p>【自衛・消防と公助一線での防災の経験の蓄積】</p> <p>宮原 文彰 【元自衛 消防官】 中島 利昌 【元消防官】 菅原 文子 【元消防官】</p>	<p>【東日本大震災から10年「生かされて」】</p> <p>菅原 文子(すかされて)【元消防官】 15年9月10日被災地を訪問。被災地の子供たちと交流。被災地の現状を伝える。10月10日(土)東日本大震災から10周年記念行事「生かされて」を開催。被災地の子供たちと交流。被災地の現状を伝える。</p>
<p>【大川小学校であったこと。単が集れちゃダメ】</p> <p>鈴木 典行(すずきのりゆき)【元消防官】 大川小学校の危機 内閣代表 大川小学校校舎での建り部活動の経験。大川小学校校舎での建り部活動の経験。大川小学校校舎での建り部活動の経験。</p>	<p>【西日本豪雨から3年。】</p> <p>菅原 文子(すかされて)【元消防官】 15年9月10日被災地を訪問。被災地の子供たちと交流。被災地の現状を伝える。10月10日(土)東日本大震災から10周年記念行事「生かされて」を開催。被災地の子供たちと交流。被災地の現状を伝える。</p>
<p>【経験から伝える 防災と生かされてへの経験】</p> <p>菅原 文子(すかされて)【元消防官】 15年9月10日被災地を訪問。被災地の子供たちと交流。被災地の現状を伝える。10月10日(土)東日本大震災から10周年記念行事「生かされて」を開催。被災地の子供たちと交流。被災地の現状を伝える。</p>	<p>【東日本大震災からの学び—「子どもたちの笑顔のために」】</p> <p>菅原 文子(すかされて)【元消防官】 15年9月10日被災地を訪問。被災地の子供たちと交流。被災地の現状を伝える。10月10日(土)東日本大震災から10周年記念行事「生かされて」を開催。被災地の子供たちと交流。被災地の現状を伝える。</p>
<p>【災害からの教訓と今後の災害支援の在り方】</p> <p>菅原 文子(すかされて)【元消防官】 15年9月10日被災地を訪問。被災地の子供たちと交流。被災地の現状を伝える。10月10日(土)東日本大震災から10周年記念行事「生かされて」を開催。被災地の子供たちと交流。被災地の現状を伝える。</p>	<p>【受難力】</p> <p>菅原 文子(すかされて)【元消防官】 15年9月10日被災地を訪問。被災地の子供たちと交流。被災地の現状を伝える。10月10日(土)東日本大震災から10周年記念行事「生かされて」を開催。被災地の子供たちと交流。被災地の現状を伝える。</p>

YouTube
アーカイブ
こちらから



4 今後の活動について

「南海トラフ地震が発生したら、四国は陸の孤島になってしまうんじゃない？
いくら善通寺に自衛隊があるからって、香川を優先してくれるわけじゃない、四国4県で助け合わないといけないんじゃない？」
そこで『四国災害ネットワーク』を立ち上げるべく準備委員会から進めています。NPOだけでなく、行政、社協、企業も一丸となって横の繋がりを深めておかないと発災してからでは間に合わない。ということで、今後皆さまのところへ連携をお願いいたします。

事務局だより

令和3年 10月

今月の事務局だよりは、川西自主防災会20周年パネル展の紹介をいたします。

川西自主防災会20周年パネル展の紹介

平成13年7月予備調査、8月に兵庫県南部沖地震において甚大な被害を被った旧北淡町役場並びに震災公園に大型バスをチャーターして40人で役員研修を行なったのをキッカケに自主防災活動を開始して本年度で丸20年をむかえました。

これまでの道のりを12コの機能に分け取組み写真をまとめ、e-とぴあ・かがわ殿のご尽力により大型パネル15枚に編集、香川県庁をはじめ、県内の公共機関並びに大型商業施設をお借りして展示会を開催しております。

予定では、11月下旬までかかるものと思っています。

会場で2~3日おきに防災何でも相談コーナーを開催しております。今一番の目標は人を集めること、自治会との連携などを訴えておりましたが、全般的に東日本大震災後の3~4年間と今のふんい気、表現にお許しいただきたいと思いますが、平和ぼけの感がしています。

特にコロナの影響で約2年間訓練、研修から遠ざかっており、緊張感がうすらいでいるのではないかと拝察しますが、各地区の役員の皆さん、コロナに負けず、密をさけ、広いグラウンド等で短かい訓練(約1時間)を計画されてはと思います。

ぜひご連絡下さい。サポートさせていただきます。



編集後記

10月の防災減災の輪は、NPO法人東北ボランティア有志の会香川の藤井様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。